

◆◆◆大城 保 議員◆◆◆



質 農家の選択肢も増え、恩納村の農業振興にも繋がる。

質 農家に苗の供給は、どれぐらいを目途に計画しているか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
現在14種類、16本を苗畑に植えております。優良品を選抜し、農家の苗の普及までには、概ね5年以上10年以内と考えています。

質 アテモヤについて、村長による市場や量販店でのトップセールスを行って、市場での反応、評価今後の需要の伸び、どう感触を得たか。

答 恩納村長 長浜善巳
試食会やピール活動を行って「他都道府県においても有望である」と認識している。全体的に量が少ない。今後は安定供給、安定生産が求められている。

質 新たな品目の産地化に向けた取り組み。

収穫まで5、6年かかると言われている「アボカド」を選定した経緯、理由があれば伺いたい。

答 農林水産課長 佐渡山安正
全国的にも、生産量が少なく99%が輸入です。人気があることから、需要が増え続けている状況にある。

全国産の生産量が少なく99%が輸入です。人気があることから、需要が増え続けている状況にある。

入計画等はあるか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
平成30年度、JAから数棟の導入の要望がございます。

◆◆◆農業振興◆◆◆ ②拠点産地のメリット

質 県の果樹農業振興方針として、新しい産地の参入もあり得る。産地間競争も出てくると思っている。

答 農林水産課長 佐渡山安正
今後も消費の伸びが見込まれるアテモヤ、農家の意向も伺いながら、拠点産地のメリットを有効的に活用すべきと思っております。

質 高品質な果実を安定的に生産するには、やはり優良品種の苗の確保が課題です。

答 農林水産課長 佐渡山安正
苗の供給も、村で責任をもって供給すべきと思っております。

質 現在、村と沖縄科学技術大学院大学との間で、意見や情報の交換及び共有は行っているか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
現在、苗畑で種苗はつくっております。これからは、生産者の方にも苗づくり等の指導、技術も習得してまいります。

質 現在、村と沖縄科学技術大学院大学との間で、意見や情報の交換及び共有は行っているか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
現在、村と沖縄科学技術大学院大学との間で、意見や情報の交換及び共有は行っているか。

質 大学院大学側が村に対して、どのような要望をしているか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
大学院大学の職員、学生の増が予想され、周辺整備の中で「宿舎」を急いでおり、住宅エリアについて、OISTと情報を共有しながら、整備していければと考えています。

質 今後、門前町構想は将来的な計画の中で、当局は、どのように実施していくのか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
県、本村、地元谷茶区など、関係機関と連携し、地権者等の合意形成が必要と考えています。

質 沖縄科学技術大学院大学からの、税収の詳細を具体的に聴きます。

答 農林水産課長 佐渡山安正
固定資産税は、平成21年度より平成29年度までの累計で8千20万円。

て頂ければと思っている。

質 沖縄で農業をするからには避けて通れない自然災害「台風」。アテモヤについても影響はかなりのあると思つ。

答 農林水産課長 佐渡山安正
定時、定量、安定した生産を図るには、台風対策の「風の軽減策」として、内側からの防風ネット、二重ネットの検討ができないか。

質 県の補助事業等があるか、検討して参りたい。防風林の整備も積極的に活用して頂きたいと思つている。



防風ネットの『二重被服』テスト状況

◆◆◆当山 達彦 議員◆◆◆



◆◆◆沖縄科学技術大学院大学◆◆◆

質 門前町構想計画の現状はどうなっているか。

答 企画課長 山城雅人
関係機関により計画の推進を図っており、昨年度は谷茶前の浜碑を整備し、生活支援基盤整備の中で、住宅エリアとして位置付けられている場所に、国道バイパス工事に伴う残土搬入を計画しています。

質 住宅地域ゾーンは、国道事務所と残土搬入の調整中ということ

とありますが、いつ頃から動き出すのか。

答 企画課長 山城雅人
森林法、他法令関係の様々な課題があり、文化的価値のあるものの調査後に、国道事務所と進めていければと考えています。

質 門前町構想は、何を想定しているか。

答 企画課長 山城雅人
また、筑波大学視察訪問から、門前町構想において参考になった点を伺います。

質 門前町構想は、大学院大学ゲート空間としての村道大袋原線沿線、谷茶区集落及び谷茶前の浜碑の周辺を「門前町地区」と位置付けておられます。

答 企画課長 山城雅人
また、視察調査結果は、国や県が企業等の誘致も主導しており、直接の係りはなかったと報告があります。

質 大学院大学門前町地区整備、村独自の基本構想は作成されているか。

答 企画課長 山城雅人
平成17年3月の沖縄科学技術大学院大学周辺整備計画(仮称)のみです。

現在、村と沖縄科学技術大学院大学との間で、意見や情報の交換及び共有は行っているか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
現在、苗畑で種苗はつくっております。これからは、生産者の方にも苗づくり等の指導、技術も習得してまいります。

質 大学院大学側が村に対して、どのような要望をしているか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
大学院大学の職員、学生の増が予想され、周辺整備の中で「宿舎」を急いでおり、住宅エリアについて、OISTと情報を共有しながら、整備していければと考えています。

質 今後、門前町構想は将来的な計画の中で、当局は、どのように実施していくのか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
県、本村、地元谷茶区など、関係機関と連携し、地権者等の合意形成が必要と考えています。

質 沖縄科学技術大学院大学からの、税収の詳細を具体的に聴きます。

答 農林水産課長 佐渡山安正
固定資産税は、平成21年度より平成29年度までの累計で8千20万円。



現在も整備が続く「沖縄科学技術大学院大学(OIST)」

質 村民税は、約4億4千616万4千円を課税しております。

質 入会権の観点から、一部を事業所分収金として、谷茶区へ還元することができるか。

答 総務課長 新里勝弘
別の観点で、谷茶区に還元できるものを各課で検討していきたい。これに関して、村長の答弁をお伺いしたい。

答 農林水産課長 佐渡山安正
課長からありましたとおり、今後、議論しないといけないと感じています。できるところから二つ門前町構想ができるようになって参りたい。